

遊々の森、末崎中学校と職員の交流

今年は ZORING2 年目である。

ZORING 作成のきっかけとなった末崎中学校で、林業体験の前の事前学習を 9 月 18 日に開催した。

昨年度からの人事異動もあり、関係する若手 7 名のうち 2 名が新メンバーで若干の不安もあるが、頻繁に打ち合わせしていたので大丈夫だと信じる。

事前学習の内容は、「森林のはたらきと私たちの生活」「森のいきものたち」「豊かな森林にするために」「ZORING のゲームの説明」「ZORING のプレイ時間」「現地作業について」だ。

質問を投げかけ場を和やかにする者、動画を活用し分かりやすくする者、地拵えを「ジィゴシィラエ」と発音し笑いを誘う者など、それぞれが工夫を凝らしていた。

ZORING の 1 回戦目は元気な中学生も手探りな感じであったが、3 回戦目にもなるとルールをきちんと理解し、相手の様子を伺いながら山づくりを進め、学びながら楽しめている様子だ。笑いや悲鳴が絶えない。

27 日は林業体験の日である。毎年行っているが、場所も人も変わるため、念入りな準備が必要となる。作業場所の確保、道具の確保、トイレの確保、先方との調整、安全確認など暑あけての対応となる。

作業は、中学生 26 人を 5 班に分け、そこにベテランや若手職員を織り交ぜ 3 名程度張り付くというスタイルで行った。

基本的な作業は各班同じであるが、作業前に事前学習をふりかえる者、手取り足取り手伝える者、適度な距離を置き見守る者など、相手に合わせた対応が出来ていたと思う。絆創膏になるチドメグサ、いろんな種類のドングリ、シカの食害から守る保護管のことなどを職員が話すと、小学校の学校林で自由に遊んでいたという思い出が蘇ったようだ。こっちは、大きなミミズに騒いだり、カマキリを捕まえたり楽しんでいる。

事前学習には岩手日報と東海新報が、林業体験には NHK と東海新報が取材に来ていただいた、ありがたい。中学生には、林業や関連する職業があることや、木の成長には時間がかかることを再認識し、木を大切に使って欲しいし、もっと自然に触れあって欲しい。

職員には、ZORING のような企画やそれを通じた経験を積み、若い人工林のようにどんどん成長してほしい。



署長 山田 亨